

特集「オブジェクト指向技術」の編集にあたって

中 島 震[†] 三ツ井 欽一^{††}

オブジェクト指向技術は、その基本的な概念の提案からすでに30年以上が経った。この間、プログラミング言語、ユーザインタフェース、データベース、分析設計、分散ソフトウェア、ソフトウェアアーキテクチャ等の幅広い領域に影響を与えてきた。同時に、産業界を含む数多くの適用実績からフィードバックを得てオブジェクト指向技術自身も進化発展している。最近では、インターネットを利用した新しいアプリケーションモデルであるWebサービスの基盤技術として不可欠のものと考えられている。

情報処理学会ソフトウェア工学研究会では、1995年以来、過去8年間に渡って、オブジェクト指向シンポジウムを開催し、オブジェクト指向技術の有用性、開発での問題点や利点、最先端の技法など多岐に渡る議論を行ってきた。昨年8月に開催したオブジェクト指向2002シンポジウムでは、基調講演、チュートリアルならびにパネル討論からなる5つの技術トラック、デモセッションに加えて、厳正な査読により採択された一般講演20件を中心とするプログラムを組んだ。200名を越える参加者を集め、研究ならびに実践の双方から活発な議論を繰り広げることができた。

このように、オブジェクト指向技術に対する学会員の関心は根強いものがある。オブジェクト指向シンポジウム2002などで発表された論文を中心として、関連技術全般についての最新研究成果や開発経験を掲載した特集号を発行することは、本分野の研究を一層推進するだけでなく、研究の最近動向や水準を広く知らしめることになる。情報処理学会としても大変有意義なことと考え、本特集号を企画するに至った。

本特集号では、対象分野をオブジェクト指向技術に関連した領域全般とし、基礎・基盤技術、発展技術、開発手法などに関する論文を広く募った。独創的な研究論文に加えて、産業界での実践に基づく経験論文を積極的に評価することとした。オブジェクト指向2002シンポジウムの発表者に限らず広く一般から公募したところ、22件の論文投稿を集めることができた。特集号編集委員会は、オブジェクト指向2002シンポジ

ウムのプログラム委員長の中島と実行委員長の三ツ井がゲストエディタとなり、論文誌編集委員を中心とする14名の編集委員から構成した。通常の論文査読プロセスと同様に、論文1編につき2名の査読者を割り当てて厳正に査読を行った。

2002年9月30日に論文募集を締め切り、2回の編集委員会を経て、7件を採択した。採択論文の内訳は、シンポジウム関連論文が4件、一般からの投稿が3件となった。本特集号では、当初の狙いどおり、オブジェクト指向に関する基礎技術、発展技術、開発手法などの最新の成果を収録できたと考えている。

最後になるが、本特集号をゲストエディタ制度によって企画する機会を与えて下さった論文誌編集委員会と、多数の秀でた論文を投稿下さった方々に感謝する。また、特集号編集委員ならびに査読を担当して下さい下さった多くの方々に感謝したい。

「オブジェクト指向技術」特集編集委員会

- 編集長
 - 中島 震 (法政大学)
 - 三ツ井欽一 (日本IBM)
- 編集委員
 - 青木 利晃 (北陸先端大)
 - 青山 幹雄 (南山大)
 - 鯨坂 恒夫 (和歌山大)
 - 飯島 正 (慶大)
 - 大須賀昭彦 (東芝)
 - 大西 淳 (立命館大学)
 - 岸 知二 (NEC)
 - 久野 靖 (筑波大)
 - 佐伯 元司 (東工大)
 - 佐藤 直人 (日本IBM)
 - 玉井 哲雄 (東大)
 - 中谷多哉子 (S-Lagoon)
 - 深澤 良彰 (早大)
 - 増原 英彦 (東大)

[†] 法政大学

^{††} 日本IBM